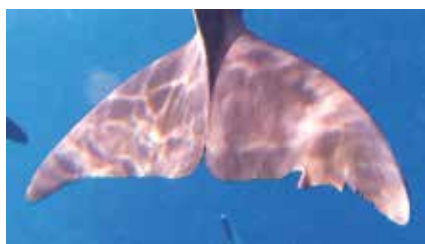
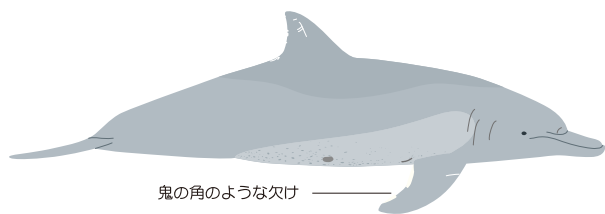
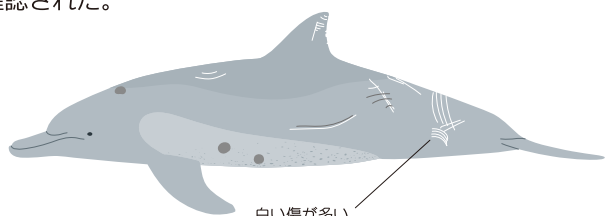


## 小笠原で暮らすイルカたち～父島列島初確認のモモタロウ～

小笠原群島周辺の海に暮らすミナミハンドウイルカの中には、賀島列島、父島列島、そして母島列島の各周辺海域のみで確認されている個体もいれば、複数の列島を跨いで確認されている個体もいます。2021年までに個体識別された294頭において、複数の列島を跨いで確認されているのは109個体であり、その中で賀島・父島列島で確認されているのが75個体、父島・母島列島で確認されているのが26個体、すべての列島で確認されているのが8個体です。イルカ通信104号では、新たに賀島列島や母島列島でも確認された個体をご紹介しましたが、今回は、この春に新たに父島列島で確認された個体をご紹介します。これまで母島海域のみで確認されていた#329(モモタロウ)です。今後も両海域で出会える可能性がありますので、特徴を覚えてみてください。

## #329・モモタロウ オス・観察歴：2016年～

尾ビレの右側に、まるで鬼の角のシルエットに見える欠損があるのが特徴。右の胸ビレにも似たような形の欠損がある。これまで母島列島のみでの確認だったが、この春に父島列島で初めて確認された。



母

#167・しらたま メス・観察歴：2005年～  
確認海域：母・父

体の右側に大きめの白斑がある。背ビレの欠損も特徴的。

姉

#259・フニャ メス・観察歴：2009年～  
確認海域：母・父

左の胸ビレの先端がフニャっとしているのが特徴。  
出産経験あり。

## ザトウクジラ定点観測結果報告～2021/22シーズン～

2021/22シーズンの半年間のザトウクジラ定点観測結果のご報告です。12月中は過去2シーズンよりも少ない値で推移し、ようやく発見数が増え始めたのは年が変わる頃からでした。1月前半にはぐっと発見数が増え、昨シーズンと同程度となりましたが、そのままの勢いで増えることはなく、1月後半から2月後半までは、発見数が過去2シーズンを下回りました。しかし、2月中に来遊ピークを迎えた過去2シーズンとは異なり、3月に入ってから発見数が増えいき、3月前半に観測ピークを迎えました。発見数が減ってきた3月後半以降も、4月前半までは過去2シーズンよりも多くのクジラを確認することができました。今シーズンは初ザトウの確認が早かったものの、結果として、過去2シーズンよりも来遊ピークが少し後ろにずれたシーズンとなりました。

